

2021 年度SDGs未来都市等提案書(提案様式1)

令和3年2月26日

北海道上士幌町長 竹中 貢

提案全体のタイトル	「だれもが生涯活躍・ 環境と調和したビジネス展開」プロジェクト
提案者	北海道上士幌町 ※複数の地方公共団体が共同で提案する場合には、代表 となる提案者に◎を付す。
担当者・連絡先	

1. 全体計画（自治体全体でのSDGsの取組）

1.1 将来ビジョン

(1) 地域の実態

(地域特性)

上士幌町は、北海道中央部に位置し、東京都23区を超える約 700 ㎡の広大な面積に人口約 4,980 人、牛約 40,000 頭が暮らし、寒暖差 60℃の厳しい自然環境で、酪農・畑作を中心とした農業を基幹産業とする小規模過疎地域である。

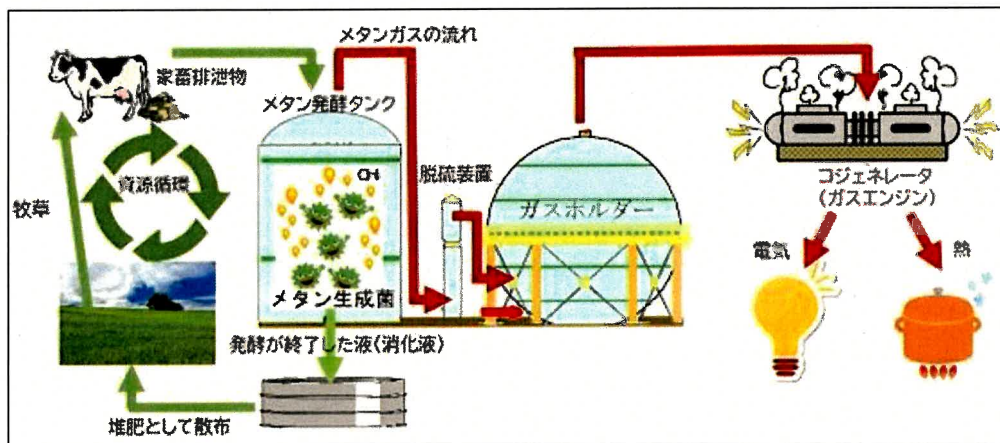
産業別就業人口^{※1}に占める農業の割合は 30.8%を占め、農畜産物生産額^{※2}は 228 億円で、福井県全体 470 億円の半分を占めるほどで、食料自給率は 3,505%を誇る。

一方、家畜から排出されるふん尿も重要な資源として活用しており、町内畜産農家と上士幌町農協などの出資により整備したバイオガスプラントによりふん尿を発酵させ、液肥化して草地に還元することで、環境に配慮した資源循環型農業を確立するとともに、ふん尿の発酵の過程で発生するバイオガスで発電し、電力を地域内に供給することで、再生可能エネルギーの地産地消を進め、水力、太陽光、畜産バイオマスをあわせた町内自然エネルギー電力（賦存量ベース）は、約 500%と推定される。



【町内のバイオガスプラント】

※1 2015 年国勢調査 ※2 2019 年町調べ



【バイオガスプラントによる資源循環と発電のイメージ】

林業の衰退や旧国鉄士幌線の廃止などで、1955 年（昭和 30 年）の 13,608 人をピークに人口減少・流出が続き、2015 年（H27）には 4,886 人にまで減少、65 歳以上高齢化率も 35.2%と少子高齢化が進んでいる。

そこで、人口減少や少子高齢化に歯止めをかけるため、暮らし、住まい、働く環境の充実を図ってきた。子育てに関しては、ふるさと寄附金を原資とし、給食費を含む認定こども園の保育料 10 年間完全無料化など、住まいに関しては、賃貸住宅の建設費補助制度な

ど、仕事に関しては、農業生産法人の規模拡大や無料職業紹介などにより、第Ⅰ期地方創生のH27～R1年度の5年間で、人口増42人、社会増244人、首都圏からの転入増118人、移住者88人となっており、特に若年層(世帯主が20～40歳代)の転入者率が7割を占めるなど、地方創生の成果を上げている。

町は、ふたつのパートナー、すなわち、まちづくり会社「(株)生涯活躍のまちかみしほろ」、地域商社「(株)karch(カーチ)」と連携し、地方創生を加速させている。

(株)生涯活躍のまちかみしほろは、こどもからシニア、主婦、障がい者、外国人などだれもが健康で、充実した生活を送ることができるよう、①介護人材の育成、②コミュニティづくり、③人材センターによる仕事・困りごと解決のマッチング、④健康ポイント事業による健康増進、⑤生涯学習「かみしほろ塾」に取り組み、人材センターの売上高が569万円(対前年度比2.27倍)など、健康や福祉、働きがい、生きがいづくりを包含する「だれもが生涯活躍のまちづくり」を効果的に進めている。

「株式会社生涯活躍のまちかみしほろ」

2017年度に、町、産業・医療・金融機関等の出資で設立。住民コミュニティの醸成や人材センター、健康づくりなど“だれもが生涯活躍のまちづくり”を推進。

「株式会社 karch(カーチ)」

2018年度に、町、旅行・ガス・金融機関等の出資で設立。ナイタイ高原牧場ナイタイテラスや道の駅の運営、バイオガス発電による地域電力小売事業など地域経済の活性化を推進。

町内は、新鮮でおいしい農産物をはじめ、45年以上の歴史がある熱気球のフェスティバル、旧国鉄士幌線のコンクリートアーチ橋梁群と幻の橋と呼ばれる「タウシュベツ川橋梁」、ぬかびら源泉郷、日本一の広さを誇るナイタイ高原牧場など、当該地域ならではの資源に恵まれており、(株)karch(カーチ)は、全国一の広さを誇る公共ナイタイ高原牧場に開設したナイタイテラス、道の駅の運営や地域資源を活かした商品開発、畜産バイオマスで発電した電力小売などで、地域経済の活性化に寄与している。



【新鮮で美味しい農畜産物】



【タウシュベツ川橋梁】



【ぬかびら源泉郷】



【ナイタイ高原牧場ナイタイテラス】



【バルーンフェスティバル】



【道の駅かみしほろ】

上記取組が評価され、第8回プラチナ大賞優秀賞「統合的地域づくり賞」(2020年10月) 第4回ジャパンSDGSアワード「SDGs推進副本部長(内閣官房長官)賞」受賞(同12月)

(今後取り組む課題)

人口減少・流出や少子高齢化、地域経済の停滞に歯止めをかけることが大前提の課題であり、Society5.0、2050年カーボンニュートラル、with コロナといった既に始まっている新たな時代を見据えつつ、これまで、全国小規模過疎地域の弱点と捉えられていた医療や福祉、交通や教育など生活における様々な「不便さ」に対し、次世代高度技術を活用して「弱点」を克服しつつ、「疎」の空間を逆に強みと捉え、疫病や災害に強い、住民の幸せ本位の地域づくりを進めていく。

(2) 2030年のあるべき姿

【2030年のあるべき姿】

1. 人類生存の基盤となる食料とエネルギーが自給されるまち

基幹産業である農業(畑作・酪農)を基盤として、食料自給率を維持しながら、畜産バイオマスによる資源循環型農業の推進により、環境に配慮しつつ、貧困や飢餓に強いまちを維持する。

バイオガス発電による再生可能エネルギーの地産地消を進め、2050年カーボンニュートラルを力強く牽引するとともに、停電に強いまちを構築する。

2. 環境と調和したビジネス展開で強靱な地域・経済が実現するまち

(株)karchと連携して、DMO事業、ナイトテラスや道の駅の運営により、主力の観光振興、商品開発により外貨を稼ぎ、雇用の創出や地域経済の活性化を促進する。

畜産バイオマスにより生み出された電力を(株)karchが登録小売電気事業者「かみしほろ電力」として電力小売を行い、多くの町内事業者や一般家庭にクリーンエネルギーの供給を推進している。また、マイクログリッドによる「停電に強いまち」の構築を検討し、内外の人々を守る地域の強靱化を目指している。

さらに、資源循環型農業や再生可能エネルギーの地産地消、「道の駅かみしほろ」で展開される食品ロス削減の取組など、SDGsと連動させた体験旅行商品の開発により、地域の価値を体感し、学ぶ新ビジネスを展開しながら、SDGsの取組を全国的に牽引している。

3. だれもが生涯活躍のまちづくりにより QOL 向上が図られるまち

まちづくり会社(株)生涯活躍のまちかみしほろと連携して、起業家支援センターを拠点に、住民等地域内外の人々が気軽に集い、困りごとや人材の情報が発掘され、支え合いやコミュニティ活動が活発に行われるとともに、発掘された仕事や困りごとと人材のマッチングを促す人材センターにより、雇用や生きがいの創出、生業として地域経済がまわる仕組みの構築、さらに、健康づくり、人材育成が相乗的に効果を発揮し、「だれもが生涯活躍のまちづくり」により、住民の QOL 向上が図られている。

4. 関係人口の創出・拡大による人材還流と新たな価値が生まれるまち

with コロナ時代に対応し、町内のシェアオフィスや企業滞在型交流施設を拠点として、都市部企業人がリモートワークやワーケーションを行うとともに、地元事業者や生産者と地域資源を活かした商品開発や販路開拓など新ビジネスの展開が活発に行われる。

さらに、生涯活躍のまちづくりで行われているコミュニティの場やかみしほろ塾などで、都市部人材のスキルを活かした人材育成や地域住民との交流を通じ、地域内外の人材還流が図られるなど、コロナ時代に対応した地方の“疎”を活かした働き方や暮らし方の提供、生涯活躍のまちづくりと連動したコミュニティの醸成や人材育成効果など新たな価値が生まれている。



5. スマートタウンの構築が地域内外の幸せを後押しするまち

上士幌町スマートタウンの姿は、「ICT、IoT、AI、ロボットなど次世代高度技術が、医療・福祉、交通、教育など住民生活をはじめ、農業や観光・商工業など産業、防災・減災など様々な分野に社会実装させ、住民の利便性の向上や産業振興が図られる地域社会」である。

スマートタウンの構築により、それぞれの分野で効果が発揮されるだけでなく、例えば、住民地域 MaaS と電気自動車により、シニアの移動が活発になり、コミュニティ活動への参加など生涯活躍につながるるとともに、二酸化炭素排出抑制や人材センターマッチングアプリと組み合わせることで、様々な世代の対価を伴う地域経済の活性化につながるという具合に、経済・社会・環境面の取組が相乗効果を発揮し、地域住民・事業者全体が恩恵を受けながら、それぞれが自主的に SDGs を目指しつつ、具体的取組を進め、生きがいを創出している。



(3) 2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール、ターゲット

(経済)

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 8、3	指標: 新規雇用人数(無料職業紹介所による雇用)	
	現在(2021年1月): 12人	2030年: 100人(累計)
 9、1	指標: 観光拠点施設(道の駅・ナイトテラス)での一人当たりの観光消費額	
	現在(2019年1月): 600円	2030年: 950円


地域経済の活性化のためには、雇用の創出が不可欠であり、行政が把握できる無料職業紹介による雇用人数と、外貨獲得の指標として観光消費額を設定している。


(社会)

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 5、1	指標: 社会増	
	現在(2021年1月): 43人(2020年1年間)	2030年: 143人(累計)
 11、3	指標: 目標人口	
	現在(2021年1月): 4,964人	2030年: 4,460人

地域社会を維持するためには、一定の人口規模や若年世代の維持が必要であり、子育てや教育の充実をはじめ、性別にかかわらず安心して働くことができる環境づくりを通じた指標として設定している。

(環境)



ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 7、1	指標: 再生可能エネルギー電力契約件数	
	現在(2021年1月): 342件	2030年: 776件

	15、1	指標: 生乳生産量	
		現在(2021年1月): 11.7万トン	2030年: 13万トン以上

畜産バイオマスを核としたふん尿の液肥化による資源循環型農業の推進と、発電された電力小売による再生可能エネルギーの地産地消を指標として設定している。


※改ページ

1.2 自治体SDGsの推進に資する取組

(1)自治体SDGsの推進に資する取組		
① 人類生存の基盤となる食料とエネルギーが自給されるまち		
ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 12、8	指標：バイオガスプラント導入による持続的農業の推進	
	現在(2021年1月): 5か所	2023年: 6か所
<p>・資源循環型農業の推進 家畜から排出されるふん尿を有効な資源として捉え、町内畜産農家と上士幌町農協などの出資によりバイオガスプラントを整備し、ふん尿を発酵させ、液肥化して草地に還元することで、環境に配慮した資源循環型農業をさらに進める。</p> <p>・再生可能エネルギーの地産地消 ふん尿の発酵の過程で発生するバイオガスで発電し、地域商社による電力小売により、クリーンエネルギーの供給と再生可能エネルギーの地産地消により、環境と経済循環型の地域社会づくりを進める。</p>		
② 環境と調和したビジネス展開で強靱な地域・経済が実現するまち		
ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 9、1	指標：観光入込客数	
	現在(2018年8月): 440千人	2023年: 940千人
<p>・観光振興、商品開発 株式会社karchが、日本一の広さを誇る公共牧場「ナイタイ高原牧場」の景観を活かした「ナイタイテラス」を運営し、地域の食材を極めたフードメニューの展開や十勝産商品の販売のほか、ナイタイテラスのナイトバスツアー、じゃがいも掘り・そば打ち体験といった体験型旅行商品の開発を行っている。</p> <p>・道の駅を拠点とした多機能化 さらに、「道の駅」を運営し、地域内外の人々の休憩、飲食、体験、交流拠点として、集客や地場産品の販売促進を図るとともに、道の駅内に無料職業紹介や移住交流の窓口を設け、いわば「町の入り口」としての機能を活かした地域経営を進めている。</p> <p>・SDGsと連動した取組 登録小売電気事業者「かみしほろ電力」として、バイオガス発電を活用した電力の小売事</p>		

業を進め、再生可能エネルギーの地産地消を進めているほか、「道の駅かみしほろ」で展開される食品ロス削減など、SDGsと連動させた体験旅行商品の開発により、地域の価値を体感し、学ぶ新しい観光ビジネスを展開する。

③ だれもが生涯活躍のまちづくりにより QOL 向上が図られるまち

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 8、5	指標：人材センター会員数	
現在（2021 年 1 月）： 87 人	2023 年： 214 人	

・地域コミュニティの醸成

地域包括ケア充実の一環として実施してきた、地域住民による主体的な助け合いを目指したまちづくりカフェ「あすわがミーティング」が、生活支援コーディネーターを介した子育て支援の場「かみしほろスマイルプロジェクト」と、住民の具現化し生業づくりにする「まちまるごとチャレンジ」へと発展させ、地域の困りごとやその担い手に関する情報の発掘、困りごとの生業開発を進めながら、人材センターの機能強化につなげる。

・かみしほろ人材センター

登録制である人材センターは、地域のしごとや困りごとと担い手をマッチングする仕組みで、上記コミュニティの醸成で掘り起こされた困りごとと担い手をさらに多くマッチングさせるとともに、生活支援コーディネーターを介した困りごとを生業として開発することや、かみしほろ塾の専門講座による担い手の育成を組み合わせ、機能強化を図る。

・生きがいづくりのトータルサポート

上記以外に、人材育成起業塾による事業計画作成と開業、その後の伴奏型支援や、健康ポイント事業による健康づくり、都市部の若年層をターゲットに、地域の「働く、学ぶ、遊ぶ」の体験プログラムにより、人手が不足している農業現場等での仕事のほか、地域コミュニティへの参加による学びや仲間づくり、熱気球やアウトドアといった遊びを一定期間体感し、地域住民との関係づくりや自己実現のサポートを進める。

※2030 年のあるべき姿の

「④ 関係人口の創出・拡大による人材還流と新たな価値が生み出されるまち」と、

「⑤ スマートタウンの構築が地域内外の幸せを後押しするまち」については、

自治体 SDGsモデル事業により推進（後掲）。

(2) 情報発信

(域内向け)

SDGsの取組を体系的に学び、ゴールに向けた自分ごととしての主体的な取組が図られることを目的として、小・中・高校生向け、事業者向けの研修・ワークショップを展開するとともに、広く域内に発信するため、主婦やシニアも対象にしたフォーラムを実施する。

また、ユネスコスクールの拡大とESD推進の過程において、児童生徒のみならず、保護者、教育関係者にも広く情報発信するほか、町の広報誌、生涯活躍のまちづくりにおいて実施している人材育成「かみしほろ塾」など様々な媒体を通じて発信する。

(域外向け(国内))

人材育成かみしほろ塾「総合講座」において、「地方で働くこと、暮らすこと」をテーマに、コロナ時代を見据え、オンラインで、町の施策とSDGsの関係について発信してきた。これをきっかけに、事業構想大学院大学と連携し、紙面展開に至ったところ。今後は、国の地方創生SDGs官民連携プラットフォームなどを活用しながら、広く発信する。

(海外向け)

2020年度、生涯活躍のまちづくりにおいて実施した「働く・学ぶ・遊ぶの体験プロジェクト」に参加したJICA訓練生が、今後、海外赴任地の子どもたちと上士幌町の子どもたちとの交流を展開したいといった動きがあるなど、地元JICA事務局と連携した交流や、国際フォーラムでの機会を捉えて推進していく。

(3) 全体計画の普及展開性

(他の地域への普及展開性)

人口減少や少子高齢化、若者流出、それに伴う地域経済の疲弊は、全国の特に過疎といわれている地域共通の課題である。

首都圏から遠く離れ、自然環境が厳しく、小規模過疎の課題先進地であった上士幌町においても、盤石な農業の強みを基盤に、家畜ふん尿を有効な資源として捉え活用し、クリーンで安定的な食糧・エネルギーの供給を実現している。

また、地域商社によるSDGsと連動した新たな観光スタイルの提案や、まちづくり会社における生涯活躍のまちづくりの展開により、雇用推進や社会増を果たしており、全国共有に課題を抱える自治体における展開可能性が高いと考える。

※改ページ

1.3 推進体制

(1) 各種計画への反映

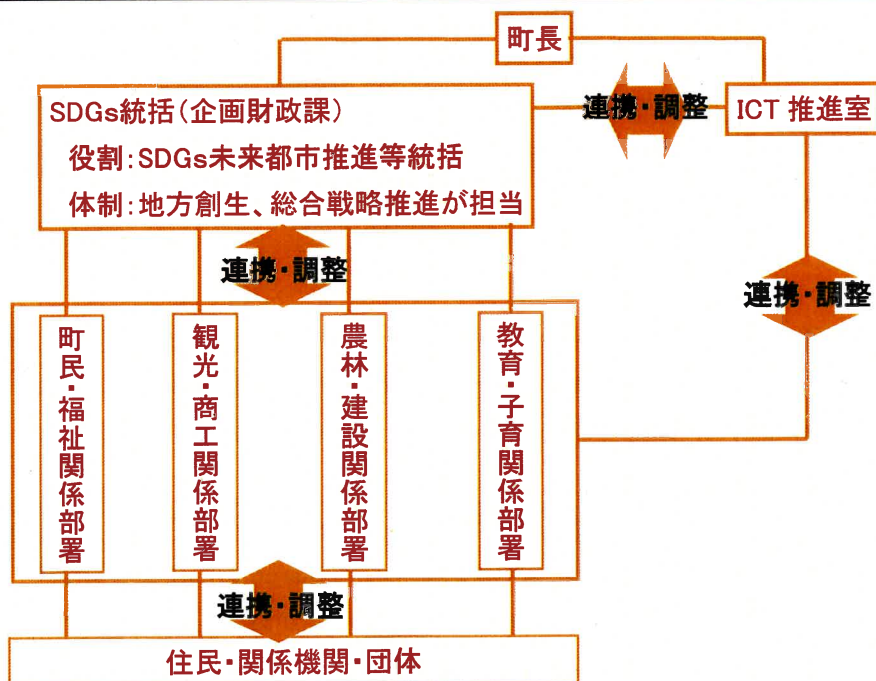
1. 上士幌町人口ビジョン・「第Ⅱ期総合戦略」

2024年度を目標年次とし、地方創生に向けた基本的考え方と目標達成のための施策、重要行政評価指標を定める総合戦略において、SDGsの視点を戦略全体にかぶせながら、農業、教育、生涯活躍のまちづくりの個別事業に重点的に反映させている。(2020年3月策定)

2. 「第6期上士幌町総合計画」

2033年を目標年次とし、実施計画(事業、評価指標)、基本計画(基本施策、重点施策)、基本構想(将来像、基本政策)を定める総合計画において、SDGsの理念、評価指標を基本計画に反映させ、関係者間での共通認識、政策目標の理解促進、効果的な連携の促進を図ることとしている。(2021、2022年度策定予定)

(2) 行政体内部の執行体制



企画財政課(地方創生、総合戦略担当)がSDGs未来都市等推進統括として、関係部署と連携・調整を行う。自治体SDGsモデル事業に深く関連するICT推進室と特に連携を図りながら、関係部署と関連する住民・機関と一丸となって、SDGsの推進を図る。

さらに、総合戦略検証会議において、毎年度2回、SDGs進捗管理と取組の検証を行う。

(3)ステークホルダーとの連携

1. 域内外の主体

(株)生涯活躍のまちかみしほろと、(株)karch のふたつの株式会社を中心として、住民や団体、事業者と行政をつなぐ「ハブ」の役割を果たし、地域全体で、有機的なつながりを形成できる。SDGsと連動したツアーを例にとると、(株)karch が主体となって、再生可能エネルギーの地産地消などに関連する事業者と連携するとともに、(株)生涯活躍のまちかみしほろが実施する「かみしほろ塾専門講座」で、住民ガイドを養成し、地域全体で SDGsを推進することを目指す。

さらに、地域住民一人ひとりが SDGsを意識し、主体的な活動が広まるよう、北海道において SDGs及び地域循環共生圏、ESD を推進する拠点である「北海道環境パートナーシップオフィス／北海道地方 ESD 活動支援センター」と連携し、必要に応じて助言や協力を得ながら普及啓発を図る。

※株式会社以外にも、多様な主体と連携・協働で取り組むことは大前提。

2. 国内の自治体

SDGs未来都市に選定されている北海道や札幌市ほか SDGs推進に積極的に取り組む全国の自治体と連携し、例えば、近隣自治体とは、資源循環型農業や再生可能エネルギーの地産地消の基盤となるバイオマスプラントの利用促進や食料自給、電力の融通による地域のレジリエンスを高めることなどが期待できる。

また、上記1の SDGsツアーを全国の SDGs推進自治体に発信するとともに、都市部若者や企業との関係づくりを進めるモデル事業と連動し、地域住民・事業者との新たな交流やビジネス展開につながることを目指す。

3. 海外の主体

ESD の推進拠点であるユネスコスクールを現在認定されている上士幌高校から認定こども園、小中学校まで拡大し、ESD を推し進めている中、国際交流推進員や外国語アシスタント、英語指導助手などを介した国際交流や、JICA などとの連携を端緒に、SDGs推進の輪を広げることを目指す。

(4)自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等

当該提案は、上士幌町が、(株)生涯活躍のまちかみしほろと(株)karch の二つの株式会社との強力な連携のもと推進するもので、株式会社は設立から3年が経過、自立に向けた経営基盤を強化してしる。

さらに、地域における民間資金の投資と還流を促す地方創生 SDGs金融を通じ、スマートタウンの社会実装など持続可能や地域社会の構築を目指すとともに、「かみしほろ登録認証制度(仮称)」により推進する予定。

※改ページ

2. 自治体SDGsモデル事業（特に注力する先導的取組）

2.1 自治体SDGsモデル事業での取組提案

(1) 課題・目標設定と取組の概要

(自治体SDGsモデル事業名)

「スマートタウンで“弱点”転変！かみしほろ幸せ循環」プロジェクト

(課題・目標設定)

ゴール9、ターゲット1

ゴール3、ターゲット8

ゴール7 ターゲット2




基幹産業の農業と技術革新を基盤として、循環型農業と再生可能エネルギーの地産地消、多産業への展開とともに、だれもが生きがいをもち、働けるまちづくりを進める。

(取組概要)※150文字

次世代高度技術の社会実装によるスマートタウンの構築を進め、地域住民の生活サポートや移動の利便性向上、全世代型のコミュニケーションを活発化させ、だれもが生涯活躍のまちづくりを後押し。さらに、再生可能エネルギーの地産地消、EV自動車による空港直行便の導入で関係人口を創出、地域経済の活性化につなげる。

(2) 三側面の取組

① 経済面の取組

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 9、1	指標：シェアオフィス利用企業数	
	現在(2021年1月): 8社	2023年: 37社

①-1 ワークेशनパックの開発

空港から町までのEV自動車やカーシェアリング、マイクロモビリティと企業人等来訪者MaaSによる移動、ビジネスホテルや企業滞在型交流施設と連携した宿泊、仕事のサブスクモデルと予約システムを構築し、兼業・副業やワークेशन滞在者の還流、ビジネス創出を図る。


①-2 都市部企業とのビジネスマッチング

2020年に整備したシェアオフィスや2021年に整備予定の企業滞在型交流施設を拠点に、都市部企業のワーケーションや副業・兼業希望者を呼び込み、町内事業者・生産者とのビジネスマッチングによる地域経済の活性化を図る。

(事業費)

3年間(2021~2023年)総額:22,015千円

② 社会面の取組

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 3、8	指標:高齢者のタブレット・チャットボット利用者率	
	現在(2021年1月): 0%	2023年: 37%

②-1 域内DXの推進

高齢者向けタブレット端末により、福祉バスの予約、ビデオ通話による保健師とのコミュニケーション、一斉情報配信による生活支援とともに、全世代向けにAIチャットボットを整備し、24時間、行政と住民双方向のコミュニケーション効果の最大化を図る。


②-2 住民向けMaaSの実証

福祉バスの一般混乗化と人手を介さない完全システム化によるデマンド運行住民向けMaaSの2022年事業化に向け実証を行い、だれもが行きつける移動の利便性向上を図る。

(事業費)

3年間(2021~2023年)総額:121,207千円

③ 環境面の取組

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 7、2	指標:再生可能エネルギー電力契約件数	
	現在(2021年1月): 342件	2023年: 559件

③-1 再生可能エネルギーの地産地消

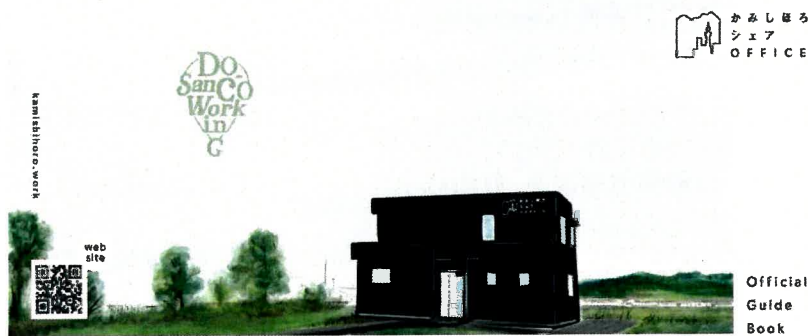
家畜ふん尿を原料としたバイオガス発電による地域電力を活用し、地域商社(株)karchが「かみしほろ電力」として電力小売による再生可能エネルギーの地産地消を推進する。

③-2 ドローン配送とEVによる空港直行便の実証

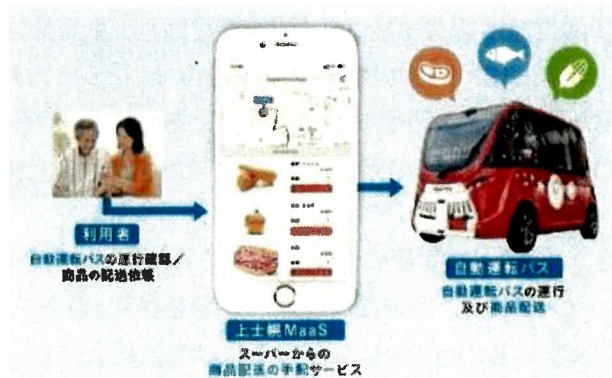
2019年に買い物アプリと連動した自動運転バスによる貨客混載の実証を進めてきたが、買い物支援を加速させるため、ドローンによる商品配送の実用化に向けた実証を行う。さらに、①-2「ワーケーションパック」の中で、畜産バイオマス発電による電力を活用したEV自動車による空港直行便を運行させ、2050年カーボンニュートラルの実現につなげる。

(事業費)

3年間(2021~2023年)総額: 25,000千円(③-2)



【企業人のリモートワークの拠点「かみしほろシェアオフィス」】



「MaaSと自動運転バスの実証実験」

(3) 三側面をつなぐ統合的取組

(3-1) 統合的取組の事業名(自治体SDGs補助金対象事業)

(統合的取組の事業名)

「かみしほろ SDGs推進プラットフォーム」プロジェクト

(取組概要)※150文字

SDGs達成に向け地域一丸となった仕組みづくりとして、人と組織をつなぐプラットフォーム機能の概念のもと、行政と事業者・団体をつなぎ、意識・情報共有と具体的な活動を促す「かみしほろ SDGs円卓会議(仮称)」を設置する。さらに、取組全体の PR とセットで民間投資を呼び込み、域内循環を促す「かみしほろ SDGs投資循環部会(仮称)」を設置する。

(事業費)

3年間(2021~2023年)総額: 15,330千円

(統合的取組による全体最適化の概要及びその過程における工夫)

「かみしほろ SDGsプラットフォーム」プロジェクト概要

- I. 「かみしほろ SDGsプラットフォーム」の構築
 - I-1 「かみしほろ SDGs円卓会議(仮称)」
 - I-2 「かみしほろ SDGs投資循環部会(仮称)」
- II. 「研修の実施による SDGs人材の育成(児童・生徒、事業者、シニア向け)」
- III. 「全国の自治体、児童・生徒、事業者等を対象とした SDGsツアーの開発・実施」

I を基盤として、SDGsに係る地域全体の取組をパッケージとして PR しながら、民間投資を呼び込み、原資としながら、次の統合的好循環を生み出す。

①(株)生涯活躍のまちづくりが担う「だれもが生涯活躍のまちづくり」、②(株)karch が担う「環境と調和したビジネス展開」、さらに、今後、③シェアオフィスと企業滞在型交流施設を拠点とした企業人との関係づくりが、①と②を加速させ、④スマートタウンの構築が、2050年カーボンニュートラルの実現、ウィズコロナ時代への対応をカバーしながら、全体の最適化を図る。

さらに、統合的取組の実効性を高めるため、(株)生涯活躍のまちづくりと連携し、II を行い、一人ひとりが自分ごととして SDGs を捉え、自主的な取組を促す。また、(株)karch と連携し、III を実施、II の人材育成で培われた町民がガイドとして視察や学びの対応を行い、域外の呼び込みと地域 SDGs の PR を行いながら、経済の活性化や民間投資の呼び込みにつなげる。

(3-2) 三側面をつなぐ統合的取組による相乗効果等(新たに創出される価値)	
(3-2-1) 経済⇔環境	
(経済→環境)	
KPI (環境面における相乗効果等)	
指標: 再生可能エネルギー電力契約件数	
現在(2021年1月): 342件	2023年: 599件
<p>「かみしほろ SDGsプラットフォーム」プロジェクトにより、経済面において、(株)karch による再生可能エネルギー地産地消の取組価値が地域内外に浸透し、環境面において、電力契約件数が増加し、再生可能エネルギーの地産地消の促進という相乗効果を創出する。</p>	
(環境→経済)	
KPI (経済面における相乗効果等)	
指標: 都市部企業とのビジネスマッチング数	
現在(2021年1月): 0件	2023年: 7件
<p>「かみしほろ SDGsプラットフォーム」プロジェクトにより、環境面において、域内で産出されたクリーン電力を利用した十勝帯広空港直行 EV 自動車を導入することにより、アクセス向上とともに、SDGsに積極的な企業のインセンティブを高め、経済面において、ワーケーションパックとともに、リモートワークやビジネスマッチングの促進により経済の活性化が図られる。</p>	
(3-2-2) 経済⇔社会	
(経済→社会)	
KPI (社会面における相乗効果等)	
指標: 起業・コミュニティづくりの拠点(hareta)への集客数	
現在(2021年1月): 2,317人	2023年: 4,000人
<p>「かみしほろ SDGsプラットフォーム」プロジェクトにより、経済面において、ワーケーションパックや都市部企業とのビジネスマッチングの中で来訪した企業人と地域住民をつなげ、社会面において、生涯活躍のまちづくりで展開されているコミュニティづくりやかみしほろ塾「専門講座」などで企業人と地域住民との交流により、双方の生きがい・働きがいが促進される。</p>	

(社会→経済)

KPI (経済面における相乗効果等)	
指標: 人材センターの業務受注件数	
現在(2021年1月): 288件	2023年: 1,088件

「かみしほろ SDGsプラットフォーム」プロジェクトにより、社会面において、生涯活躍のまちづくりの中で展開されているコミュニティづくりを通じ、地域の困りごとや仕事と、それを解決できる人材が掘り起こされ、人材センターの会員になってもらうことで、経済面において、支え合いが対価を伴い、地域経済が循環する仕組みが構築される。

(3-2-3) 社会⇄環境**(社会→環境)**

KPI (環境面における相乗効果等)	
指標: SDGsに示される 169 のターゲットに関する取組数	
現在(2021年1月): 2件	2023年: 14件

「かみしほろ SDGsプラットフォーム」プロジェクトにより、社会面において、生涯活躍のまち「かみしほろ塾専門講座」により SDGsツアーのガイドを担う町民が育成されつつ、全国から SDGsツアーによる来訪者が SDGsに関する町の取組を学んでもらうことで、地域内外の一人ひとりの意識向上、自分ごととしての行動につながり、国全体での取り組みを促す。

(環境→社会)

KPI (社会面における相乗効果等)	
指標: 次世代高度技術の社会実装項目	
現在(2021年1月): 10項目	2023年: 26項目

「かみしほろ SDGsプラットフォーム」プロジェクトにより、環境面において、2050年カーボンニュートラルにつながるドローン配送とEVによる空港直行便の実装が、社会面において、直接買い物支援に結びつくとともに、環境に配慮した移動の利便性向上が、地域住民の足の確保とともに、シニアの生きがいづくりなど、生涯活躍のまちづくりを後押し、来訪者の増加で、経済効果のみならず、住民との交流による人の循環、生きがい・働きがいにつながる。

(4) 多様なステークホルダーとの連携

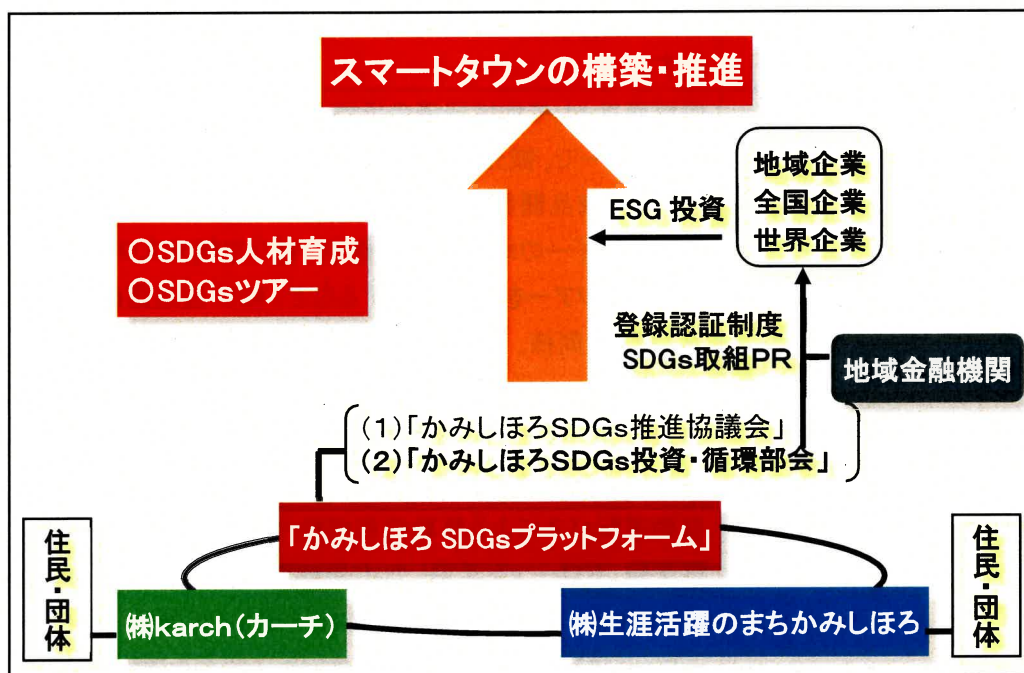
団体・組織名等	モデル事業における位置付け・役割
(株)生涯活躍のまち かみしほろ	生涯活躍のまちづくりにおける上士幌町とのパートナーで、コミュニティづくり(「スマイルプロジェクト」、「まちまるごとチャレンジ」)、人材育成(「専門講座」、「起業塾」)、健康づくり(「健康ポイント事業」)、関係人口の創出・拡大(「MY-MICHI プロジェクト」)、人材センターを運営し、地域包括ケアの充実にも参画し、関係団体、住民とのハブの役割を果たす。
(株)karch	地域商社として地域経済の活性化における上士幌町とのパートナーで、観光施設の運営のほか、DMO、地域資源を活用した商品開発のほか、「かみしほろ電力」として再生可能エネルギーの地産地消の推進、新たな観光スタイルとしてSDGs ツアーを企画運営するなど、(株)生涯活躍のまちかみしほろと同様、関係団体、住民とのハブの役割を果たす。
イノベーションチャレンジ実行委員会	自治体 SDGsモデル事業におけるスマートタウンの実現に向けた官民協働の実動組織で、2018 年度から、MaaS や自動運転バスによる移動の利便性向上や買い物支援の実証実験、ドローンを活用した山岳救助コンテストを実施しており、今後の実装に向けて、地域事業者、住民のほか、ワーケーション等来訪者とともにサービス開発を担う役割を果たす。

※かみしほろ SDGsプラットフォームにより、上士幌町、(株)生涯活躍のまちかみしほろ、(株)karch を中核に、総合戦略検証会議の枠組みを活用し、住民、事業者、金融機関、NPO、医療・福祉、教育、大学、報道の各機関を交えたプラットフォームを 2021 年に形成し、これまでの統合的好循環をさらに加速させ、SDGs推進に関わる人の紐帯と企画運営を先導する役割を果たす。

(5) 自律的好循環の具体化に向けた事業の実施

(事業スキーム)

町が、(株)生涯活躍のまちかみしほろと(株)karchと連携して「かみしほろ SDGs推進プラットフォーム」を形成。SDGs推進の企画・運営を担う「(1)かみしほろ SDGs推進協議会」と ESG 投資と域内循環を推進する「(2)かみしほろ SDGs投資循環部会」のうち、(2)により、全国に地域 SDGsの取組の PR とともに、投資を呼び込みながら、スマートタウンの実現を図る。



(将来的な自走に向けた取組)

スマートタウンの構築に向けては、企業版ふるさと納税のスキームでインセンティブを高めながら全国の企業から投資を呼び込む。

上士幌町、二つの株式会社とともに、「かみしほろ SDGsプラットフォーム」を推進しながら、地域金融機関、事業者と連携、スマートタウンにおける各分野の分担を整理する。

その上で、公共的分野においては上士幌町が担い、事業者が担う項目分野においては経営が成り立つスキームを構築し、全体として自走できる仕組みとする。

(6) 自治体SDGsモデル事業の普及展開性

(他の地域への普及展開性)

全国の地方においては、かねてより住民の移動手段の確保や利便性の向上が課題であるほか、Society5.0 や今後のコロナ時代を見据え、次世代高度技術の社会実装によるスマ

ートタウンの構築は、福祉や生活の利便性、働き方など、地方の優位性を高めながら、人の幸福に支える最大優位的手段と認識している。

庁内に、専門の推進部署として ICT 推進室を設け、全庁、町内外のステークホルダーと連携しながら、関係人口の創出・拡大や、スマートタウンの構築を進めており、コロナ時代に即した働き方や暮らし方の提案など、経済・社会・環境面を統合的に SDGs を推進していることは、全世界の同様な小規模自体のロールモデルとなりえると考えられる。

(7) 資金スキーム

(総事業費)

3年間(2021～2023年)総額: 183,552千円

(千円)

	経済面の取組	社会面の取組	環境面の取組	三側面をつなぐ統合的取組	計
2021年度	10,005	67,647	15,000	5,798	98,450
2022年度	6,005	26,610	10,000	4,766	47,381
2023年度	6,005	26,950	0	4,766	37,721
計	22,015	121,207	25,000	15,330	183,552

(活用予定の支援施策)

支援施策の名称	活用予定年度	活用予定額(千円)	活用予定の取組の概要
地方創生推進交付金 (内閣府)	2021	92,652	経済面、社会面、環境面の取組部分について、活用予定。(申請済)
地方創生推進交付金 (内閣府)	2022	42,615	経済面、社会面、環境面の取組部分について、活用予定。
地方創生推進交付金 (内閣府)	2023	32,935	経済面、社会面、環境面の取組部分について、活用予定。
地方創生支援事業費補助金	2021	15,330	三側面をつなぐ統合的取組について活用。

(民間投資等)

登録認証制度を通じた地方創生 SDGs 金融により、企業版ふるさと納税を活用することとし、地域再生計画「上土幌町総合戦略推進計画」において、2021年度 25,000千円、2022年度 25,000千円、2023年度 40,000千円の寄附見込額としている。

※改ページ

(8)スケジュール

	取組名	2021 年度	2022 年度	2023 年度
統合	「かみしほろ SDGsプラットフォーム」プロジェクト	プラットフォーム円卓会議(仮称)(5回) 研修会(小中高)(~8月) 研修会(主婦・シニア・事業者)(~12月) 「SDGs投資・循環部会」研究会(~9月) 投資促進活動(~3月) SDGsツアー企画(~8月) SDGsツアー実施(~11月)	円卓会議開催 研修会実施 投資促進活動 SDGsツアー実施	円卓会議開催 研修会実施 投資促進活動 SDGsツアー実施
経済	・都市部企業とのビジネスマッチング ・ワーケーションパックの開発	兼業・副業希望者調査・募集(~8月) 庁内事業者・生産者とのマッチング(~3月) 移動・宿泊予約システム設計(~7月) 予約システム実証(~10月) システム構築(~3月)	マッチング展開 ビジネス創出・拡大 予約システム運用	マッチング展開 ビジネス創出・拡大 予約システム運用
社会	・域内 DX の推進 ・住民向け MaaS の実証	高齢者向け情報配信用端末等貸与調査(~7月) 高齢者向け情報配信用端末等貸与・使用サポート(~3月) MaaS システム、デバイス調査設計(~7月) MaaS システム実証、デバイス設置(~10月) MaaS システム運用(~3月)	端末貸与・サポート AI チャットボット機能拡張 MaaS システム運用(~3月)	端末貸与・サポート AI チャットボット機能拡張 MaaS システム運用(~3月)
環境	・再生可能エネルギーの地産地消 ・ドローン配送とEVによる空港直行便の実証	EV 導入設計(~7月) ガスプラント性能試験(~3月) 電力供給(継続) モデル実証(~9月) モデル構築(~3月)	電力供給 買い物アプリ開発・配送ドローンと連携	電力供給

2021年度SDGs未来都市全体計画提案概要(提案様式2)

提案全体のタイトル:「だれもが生涯活躍・環境と調和したビジネス展開」プロジェクト

提案者名:北海道土幌町

全体計画の概要:

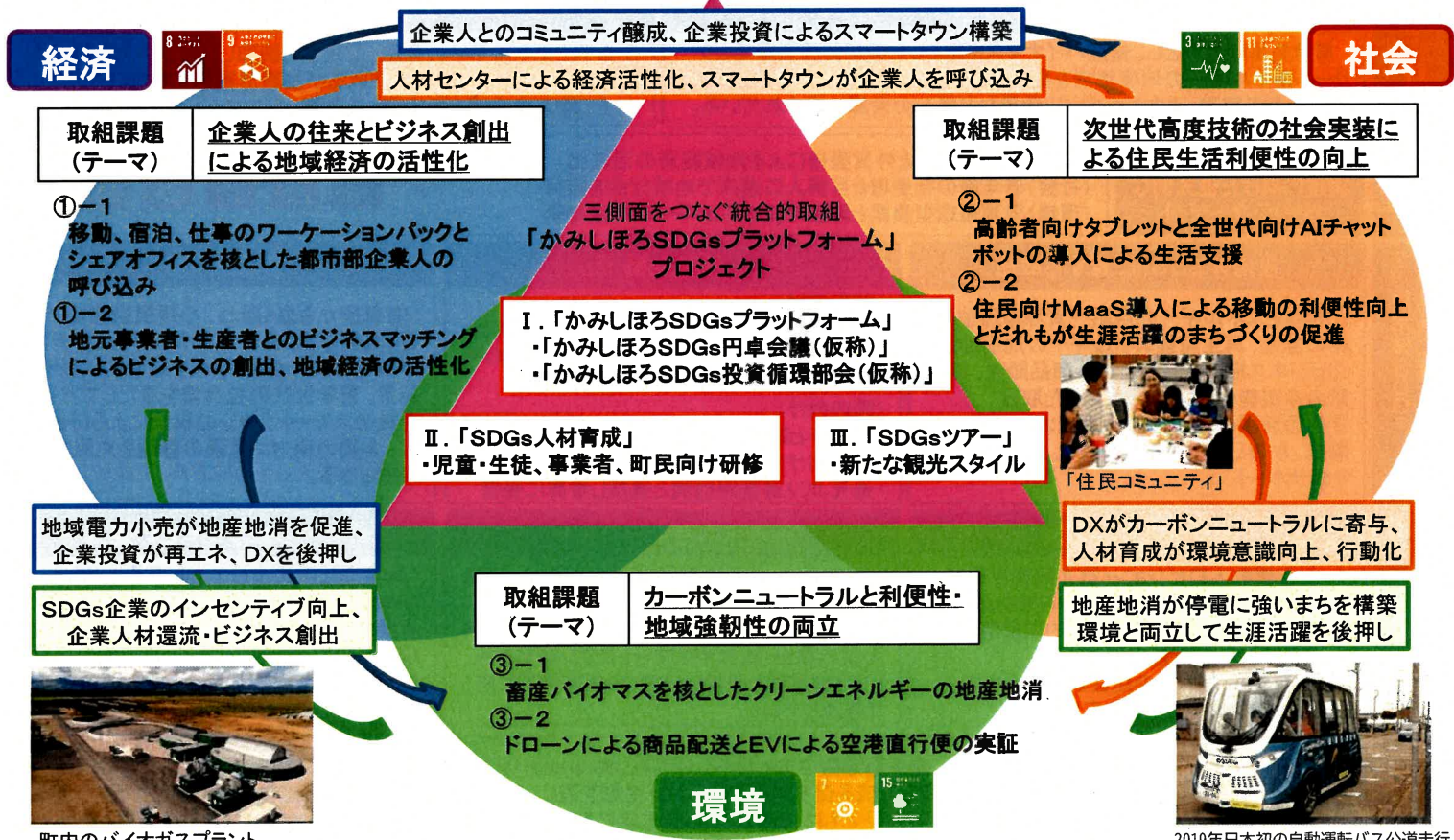
人口減少・流出や地域経済の停滞に歯止めを大前提として、次世代高度技術を活用して疫病や災害に強い、住民の幸せ本位のまちづくりを進めるため、今後、次の5つの課題に重点的に取り組む。①資源循環型農業と再生可能エネルギーの地産地消、②地域資源を活かしたビジネス展開、③暮らし、住まい、働く環境の整備、④だれもが生涯活躍のまちづくり、⑤関係人口の創出・拡大とスマートタウンの構築。

1. 将来ビジョン	地域の実態	2030年のあるべき姿	
	農業を基幹産業とし、畜産バイオマスを中心とした資源循環型農業とクリーンエネルギーの地産地消を推進。人口流出が続くも、子育ての充実で社会増を実現。タウシュベツ川橋梁など無二の資源に恵まれている。	①食料とエネルギーの自給、②環境と調和したビジネス展開で強靱な地域と経済を実現、③だれもが生涯活躍のまちづくりでQOL向上、④人材還流と新ビジネス展開、⑤スマートタウンの構築	
2. 自治体SDGsの推進に資する取組	2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール・ターゲット	(経済)雇用の創出と外貨獲得による地域経済の活性化 (社会)若年層の社会増と目標人口達成で地域社会を維持 (環境)資源循環型農業と再生可能エネルギーの地産地消	
	自治体SDGsに資する取組	情報発信	普及展開性
3. 推進体制	①食料とエネルギーの自給～資源循環型農業の推進、再生可能エネルギーの地産地消 ②ビジネス展開～観光振興、商品開発、道の駅の多機能化、SDGsと連動した取組 ③生涯活躍のまちづくり～地域コミュニティの醸成、かみしほろ人材センター、生きがいがづくりのサポート	(域内向け) ・研修やWSをはじめ、ESDの推進、町広報紙、人材育成「かみしほろ塾」などを通じて、域内に広く浸透 (国内向け) ・大学等と連携し多彩なチャネルで発信 (海外向け) ・地元JICA等国際機関と連携し世界に発信	首都圏から遠く離れ、小規模過疎地であるにも拘らず、食料やエネルギー、子育てや教育などSDGsの取組を統合的に展開。結果、若年世代の社会増を果たしており、今後のスマートタウンの構築による好循環は、全国の地方に共通の課題を克服する好例となる。
	各種計画への反映	行政体内部の執行体制	ステークホルダーとの連携
	1. 上土幌町人口ビジョン・第Ⅱ期総合戦略SDGsの視点を戦略全体にかぶせながら、農業、教育等個別事業に重点的に反映。 2. 第6期上土幌町総合計画2022年度策定予定の総合計画において、SDGsの理念、評価指標を反映。	地方創生、総合戦略推進担当がSDGs推進を統括し、関係各課と連携しながら、住民や関係機関など一体となって推進。さらに、関係人口の創出・拡大やスマートタウン構築を担うICT推進室と連携し、SDGs未来都市に向け推進していく。	(株)生涯活躍のまちかみしほろと、(株)karchが住民と行政をつなぐ「ハブ」として有機的つながりを形成。さらに、北海道環境パートナーシップオフィスや全国の自治体、町の国際交流推進員などと連携し、SDGs推進の輪を広げていく。
自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等	上土幌町が、(株)生涯活躍のまちかみしほろと、(株)karchをハブとして事業者や金融機関と連携し、地域における民間資金の投資と還流を促す地方創生SDGs金融を通じ、スマートタウンの社会実装などによる持続可能な地域社会の構築を目指すとともに、かみしほろ登録認証制度(仮称)により地域一丸となったSDGsを推進する予定。		



2021年度自治体SDGsモデル事業提案概要(提案様式3)

自治体SDGsモデル事業名:「スマートタウンで“弱点” 転変! しみほろ幸せ循環」プロジェクト	提案者名: 北海道士幌町
取組内容の概要: 次世代高度技術の社会実装によるスマートタウンの構築を進め、地域住民の生活サポートや移動の利便性向上、全世代型のコミュニケーションを活発化させ、だれもが生涯活躍のまちづくりを後押し。さらに、再生可能エネルギーの地産地消、EV自動車による空港直行便の導入で関係人口を創出、地域経済の活性化につなげる。	



町内のバイオガスプラント

2019年日本初の自動運転バス公道走行